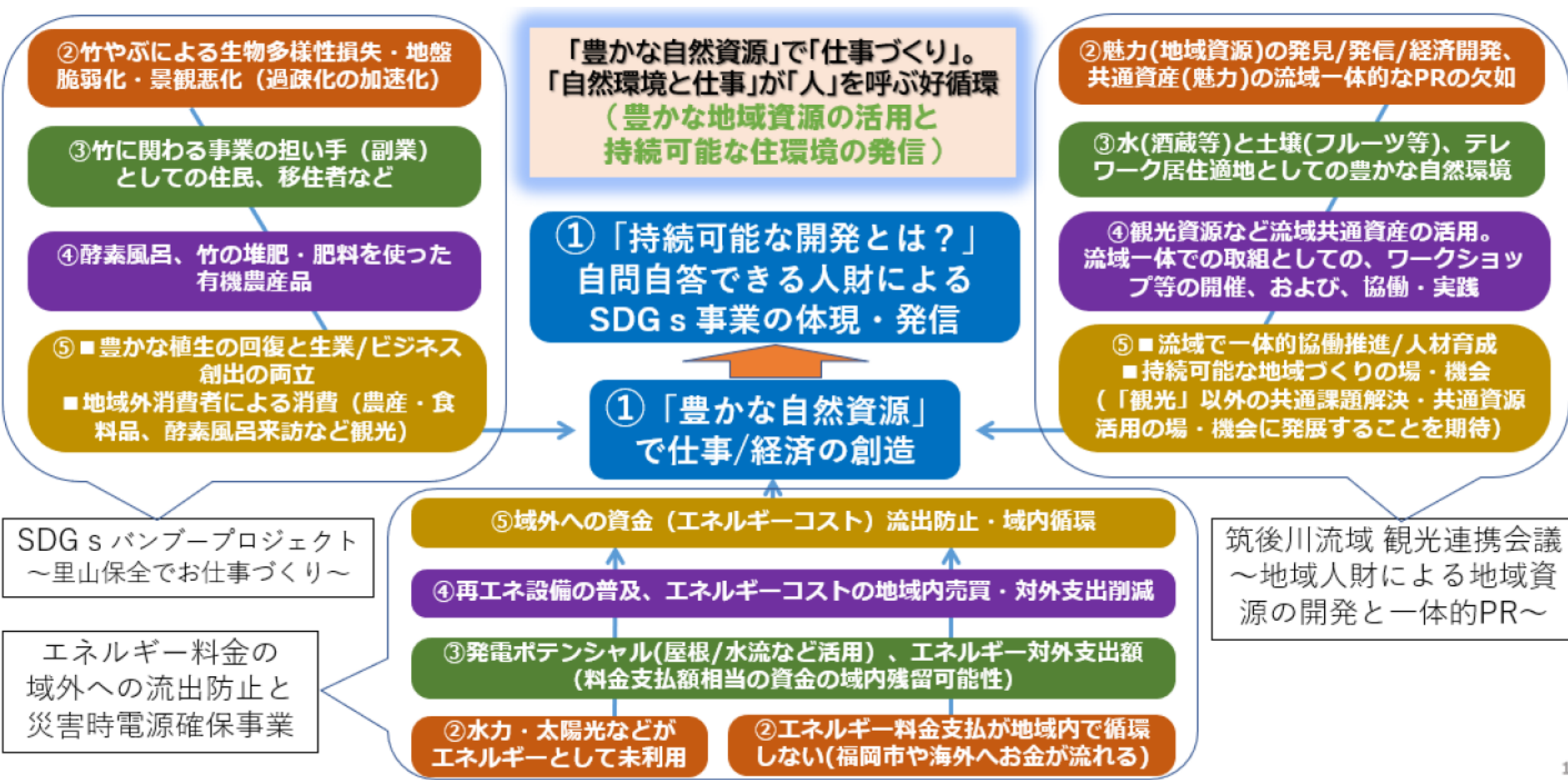


環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業
成果報告会 発表資料

活動団体名：一般社団法人 九州循環共生協議会
活動地域：朝倉および筑後川流域

**起業家・新規事業が
生まれやすい筑後川流域づくり**
～地域資源を活用したお仕事づくり(人口減少対策)の試み～

地域循環共生圏を活用して目指す地域の姿



地域のビジョンを実現するための成果指標

環境保全を含むSDG s 事業と 経済発展が両立する社会の実現

短期目標

長期目標

環境

竹の肥料/堆肥を
利用する農家

竹の肥料/堆肥を使った農法の
域外からの見学

PFが関与する2020年度以降のPPA、ESCOによ
る設備工事

2020年度以降新たに地域内の再生電源を
(FITでなく) 小売りする事業者数

経済

CO2排出係数を点数化した
電力の共同調達 (入札)

CO2排出係数を点数化した電力の共同調達 (入
札) を行う、入札グループ数

PFが関与するクラウドファンディング型ふるさと納税
にチャレンジする事業者

地域資源活用型事業者の
フォーラムができている

社会

PFが関与する地域横断型・事業横断型の
地域資源活用事業(筑後川流域観光パック商品)

地域資源活用型事業者の
フォーラムができている

—

—

コアとなる事業の概要3つ（事業のタネ）

1	事業の名称	SDGs バンブープロジェクト ～里山保全でお仕事づくり～	
	事業の概要	竹を粉砕し堆肥・肥料とする。更に二次粉砕し「酵素風呂」（砂風呂風に竹パウダーに浸かりその発酵熱でリフレッシュ）に利用する。竹肥料が恒常的に使用されるには農産品が消費者に評価される必要がある。品質の評価検証システムの構築を考察する。酵素風呂運営者と連携し、発酵熱の管理方法などをマニュアル化（動画マニュアルを双方向で情報共有するサービス業者と協議中）することによりサービス品質の向上を図る。	<p>想定される課題・ボトルネック</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 竹粉砕用チップ購入費、伐採人件費の調達 ■ 竹やぶ地主からの竹藪整備の了解 ■ 「地域の主要な産業としての農業」を行政が下支えの観点より「ふるさと納税」の返礼品に農産品や酵素風呂の割引券などをラインアップし、価格競争からの脱却・地域主要産業振興
2	事業の名称	エネルギー料金の域外への流出防止と災害時電源確保事業	
	事業の概要	再エネと省エネは設備が必要だが、補助金申請サポートを行う。また、当該設備の資金負担者は（設置先でなく）設備事業者が行うPPA方式(Power Purchase Agreement)、ESCOシェアードセービング契約を優先したい。「エネルギーコスト削減」としては、電気料金の共同入札を行う。この特色は電気事業者のCO2排出係数を点数化し、電力のグリーン調達を進める。設備導入（省エネ・再エネ）によるCO2削減分のJクレジットの販売をサポートする。	<p>想定される課題・ボトルネック</p> <p>本事業立ち上げ当初の営業が課題である。特に「共同グリーン入札」事業は、どのような属性の電力需要を組成するか？を丁寧に考察し、対象者へ説明・アプローチする必要がある。医療法人・学校法人など災害時の重要拠点や、災害後の復興に重要な拠点となる物流倉庫などを検討中。</p>
3	事業の名称	筑後川流域 観光連携会議 ～ 地域人財による地域資源の開発と一体的PR ～	
	事業の概要	地域共通課題（防災・受援など）や地域共通資源（温暖な気候、豊かな土壌など）について個別のテーマを設定し、ワークショップの開催（機会・場づくり）と協働の実践（地域横断型防災・受援構想、農産品の流域ブランド化など）するというシステムの定型化を目指したい。第1弾としての観光産業をテーマに地域・観光資源横断型パック商品の開発が実現する「場・機会」づくりを行う。	<p>想定される課題・ボトルネック</p> <p>大きなボトルネックはないものと想定しているが、ワークショップへの参加人数（組織の数）を一定数確保することが当面の課題。スタートアップが重要だ。</p>

今年度事業の成果と課題、今後の意気込み

今年度の成果

(本事業に取り組んで良かったこと)

- マンダラ図という俯瞰した視点で地域を見たとき、竹以外の課題（人口減少＝働き口）も対処すべき大きな課題と、プラットフォームとしての（勝手な）自覚が生まれ、「地域資源活用型アントレプレナーを排出する元気な筑後川流域」を目指したいと考えようになった。
- 点と点を結び、丁寧に協働していくことが重要と再認識した。民間事業者について高い壁はなかったが、行政機関とは公務という性質に留意しコミュニケーションを図るよう心掛けた。また、特定事項の各自治体取組の濃淡を考慮し、成功事例を早期に確立し参照頂く事の重要性を感じた。

地域の活動の上での課題

- **地域のビジョンについて:** 特定事項の各自治体取組の濃淡への柔軟な対応力の向上
- **ステークホルダーの巻き込みについて:** 取組意義の説明力・メリットデメリットの分析力の向上
- **成果指標について:** 設備予算を有する目標についての資金調達
- **その他:** 自治体間において地域共通課題（放置竹林）の共通認識はあるが、具体的な取組については個別の対応が必要と認識した。地域別に多様な対応できるよう、対応力強化が課題。

今後の意気込み

事業	取組	おおよそのスケジュール
SDGsバンブープロジェクト	日本版CSAの立上げ	【10-12月】日本版CSAたたき台事務局提示・協議 【1-3月】事務局案の修正案提示・協議。最終案提示
	酵素風呂/竹伐り作業の動画マニュアル	【10-12月】動画製作中間報告。内容協議 【1-3月】事務局案の修正案提示・協議。最終案提示
エネルギー料金の域外への流出防止と災害時電源確保事業	再エネ(PPA)、省エネ(ESCO)の普及	【10-12月】進捗状況中間報告。協議 【1-3月】来年度計画協議
	CO2排出係数を点数化した電力の共同調達	【10-12月】進捗状況中間報告。協議 【1-3月】来年度計画協議
筑後川流域観光連携会議	「掛け算ドラフト会議」(仮称)	【10-12月】会議開催 【1-3月】事務局作成報告書の説明。来年度取組協議